

里山の生物多様性を未来遺産に

Preserving Satoyama Biodiversity in pursuit of Heritage for the Future

村山 史世 講師
麻布大学 生命・環境科学部 環境科学科 地域社会研究室

Fumiyo Murayama Assistant Prof.
School of Life and Environmental Science, Department of Environmental Science

少子高齢・過疎の集落「青根」

	面積	世帯数	人口
相模原市	328.8km ²	311,899	720,328
青根	36.25km ²	341	622
青根/市全域	11%	0.1%	0.08%



- ・神奈川県相模原市緑区
- ・青根一橋本は国道413号で25km、車で約60分の距離
- ・橋本一青根のバスは平日6往復、土日2往復。
- ・青根小学校の全校児童数6人。

日本の未来図としての青根

- ・人口減少社会の進行であらゆる地域で持続可能性が問題となる。
- ・定住人口増加を望む地元住民と人口動態予測の現実。
- ・既に高齢化率51%、30年後に人口は3分の1に。

	2010年	2015年 (人口ピーク)	2060年	人口減少 2010→2060
相模原市推計	71万7千人	73万2千人	54万2千人	-17万4千人

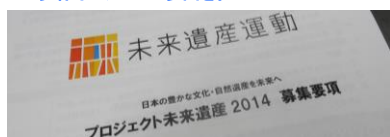
	2013年	2018年	2043年	2013/2043
青根の人口推計	669人	402人	227人	33%
青根の高齢化率	51.9%	64.2%	74.0%	22.1%↑

里山の生物多様性—青根の場合

- ・川原林田(道志川・カヤ原・水源林・田畑)等で構成される**多様な生態系**。
- ・多様な生態系は、人々の生業やムラ仕事・遊び仕事で維持管理されていた。
- ・過疎の進行に伴う**担い手不足**により、**生態系の多様性が損なわれつつある**。
- ・生態系の多様性の**回復・維持管理**には、地元住民以外の「**ヨソモノ**」の**参画**が必要。

未来遺産運動

- ・未来遺産運動 放っておくと消滅する自然や文化を未来への遺産として維持管理する活動を、日本ユネスコ協会連盟が応援。
- ・**青根の生物多様性を未来遺産に。**
- ・**多様なヨソモノの参画を。**



ヨソモノの参画・協働⇒未来遺産の共有

青根未来遺産調査

地域資源の再発見・再確認

青根未来遺産の発信

青根未来遺産ツアー

これらの活動の全国に！
全世界に(GM・新聞等)

実際に外部の人に来てもらい
交流人口を増やす

青根の生物多様性の調査

- ・環境省モニタリングサイト1000里地調査で2013年から「カヤネズミ」「アカガエル」「水環境」「人為的インパクト」の調査を実施中。
- ・「カヤネズミなどを指標とした里地里山の生物多様性の調査と自然かんざつ会」で2013年度Takara ハーモニストファンド助成金を獲得。
- ・**生物多様性アクション大賞2015入賞**

青根未来遺産の発信

- ・平成25年度環境省事業「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業」神奈川県事務局
- ・全国わがまちCMコンテスト最優秀賞
- ・相模原市緑区ショートフィルムコンテストWe Love 緑区 CM部門賞受賞
- ・NHK BS プレミアム ニッポンの里山「アカガエルの里 青根」撮影協力
- ・**生物多様性アクション大賞2015入賞**
- ・新聞記事掲載多数

青根未来遺産ツアー

- ・5月: 田植えでは、麻布大学附属高等学校も受け入れて総勢50人が参加。
- ・8月: 湘南学園中学・高等学校10人を受入れ。
- ・**今後も参加者を募集。**

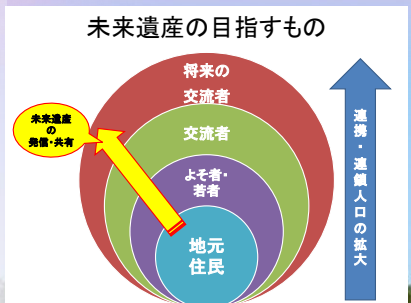


期待される効果



青根住民だけでなく、
外部の人も青根の価値を知って、
郷土愛アップすれば、
青根に来なくなる人、帰ってこない人が増える。

あおね里山グリーンマップ



持続可能な発展・開発 (Sustainable Development = SD)

環境に配慮し、経済・社会が公正に発展

- 環境に配慮し、経済・社会が公正に発展
- 世代間の公正、地域間の公正
- これらを実現するための地域コミュニティのあり方
- 所与の条件として人口減少社会

地域コミュニティの持続可能性へ

- 将来世代のために、郷土に地域資源を残さねばならない
- そのためにすべきことは・・・
- ① 「共同管理されるべき地域資源・未来遺産の再発見・再創造」
- ② 「アイデンティティの確立と地域内外の多様な主体による地域資源・未来遺産の持続的な共同管理」
- ・ビジネスとは違った視点が必要
- ・「社会的共通資本」の管理や「ESD」



社会的共通資本 (宇沢弘文)

- 「一つの国ないし特定の地域に住むすべての人々が、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような社会的装置を意味する」
- ・「自然環境」「社会的インフラストラクチャー」「制度資本」
- ・「社会全体にとって共通の資産として社会的に、社会的な基準に従って管理運営される」
- ・「政府の管理や市場の基準ではなく、職業的専門家の規律に従って管理運営される」

ムラ仕事・遊び仕事

- ムラ仕事: 山の維持、水の維持、道の維持、神社の維持のための無償労働
- 遊び仕事: 自然を対象にした生業と遊びの中間的な活動。かじか取り、ひっかじり、養蜂など
- いずれも、コミュニティの維持のために必要
- ・外部との交流のチャンネル?
- ・社会的共通資本の共同管理方法の学び
- ・ムラ仕事や遊び仕事を通じた、実践コミュニティの再生産

人口減少社会とESD

- ・定住人口が増加しなくても、青根の生物多様性を未来遺産と認めて、参画する交流人口・連携人口が増加すれば、持続可能性は期待できる。
- ・青根の未来遺産を教材とした学びが、持続可能な開発・発展のための学び (ESD = Education for Sustainable Development) である。